

1. 評価報告概要表

作成日 平成19年9月25日

【評価実施概要】

事業所番号	1190600013
法人名	株式会社メデカジャパン
事業所名	庄和ケアセンターそよ風
所在地	344-0117 埼玉県春日部市金崎675-2 (電話) 048-718-3730

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成19年9月25日

【情報提供票より】(平成19年9月7日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤12人, 非常勤1人, 常勤換算12.6人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	63,000 円	その他の経費(月額)	理美容代、おむつ代(実費)	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000円)	有りの場合 償却の有無	有(期間:1年)	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	600 円	おやつ	100 円
	または1日当たり	1,400 円		

(4) 利用者の概要(9月7日現在)

利用者人数	18名	男性	5名	女性	13名
要介護1	4名	要介護2	4名		
要介護3	7名	要介護4	2名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 80.8歳	最低	61歳	最高	90歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	愛和病院(内科・外科・泌尿器科・眼科・整形外科)、かみむら歯科医院
---------	-----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

庄和ケアセンターそよ風は、県内に8箇所のグループホームを運営する株式会社メデカジャパングループに属し、各施設が連携しあっている。当ホームは開設1年半の新しいホームでリビングはゆったりと明るく清潔感があり、廊下も広く浴室やトイレも安全に配慮されたつくりである。また、居室は個人の好みに応じたつくりとなっており、なじみの家具や思い出の品で飾られている。近隣には県営団地やスーパー・公園・高等学校などがある。職員一同「共に生きる」の理念の実現に向けてケアに努力され、ホールには代表者直筆の理念を掲げ、理念追求の心意気を示されている。ホームのセンター長は人と人が関わる仕事の魅力は他の仕事では得られないとの考えを持ち、このことをすべての職員に伝えたいとの熱意を持っている。職員は「共に生きる」とは自分の両親・家族が介護を受けると同じように利用者のケアをすることとらえ、共にあることで自分達も成長できるような関係を築きたいという気持ちがある。「自己評価は大変だったが、自分達の成長に繋がると思うと楽しかったし、新たな目標が見えてきた。」と前向きな姿勢が伺えた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 今回が初めての外部評価のため、該当しない。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 初めての外部評価で、何から手をつけてよいか迷ったが、全職員で目的を確認しできることから話し合い、利用者の意思・意識を取り入れ、自己評価をした。自己評価により、「新たな課題も見つかり今後の仕事の目標にしたい。」と考え方も前向きである。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、参加メンバーに隣の団地の代表2名や、家族や市町村担当者も加わって、情報交換・事例検討等を行い、ケアに反映している。今後は持続的に参加者を増やしていく努力をしたいという。また担当医にも会議の内容について報告をしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 家族には近況についてホーム便で報告し、預り金の収支については毎月1回郵送で報告している。個人的に必要なことは家族の面会時に直接伝え、遠方で面会の少ない方へは、電話で知らせている。利用者の受診には職員2人体制で対応し、家族に報告するよう心がけている。職員の異動・交代の際は、家族がホームの近隣に住んでいる場合は家庭訪問したり、遠方の方へは電話や面会時などで挨拶・報告している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 近隣の団地の下水掃除や草取りを行っている。また団地の方などが将来の参考にと見学に来られた際には対応する。クリスマス会や納涼祭には高校生のボランティア部の方がレクリエーションに参加されたり、逆にテーブルやテント等を借りる等の交流がある。地域のマラソン大会・凧揚げ祭りではトイレ・駐車場の貸し出しなど地域に還元している。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中でその人らしく生活することを支えるため独自の理念を「共に生きる」とし、職員は「自分達の両親を介護すると同じように介護させて頂く。介護を通し人生の先輩である利用者を尊重し、自分達も学ばせて頂き共に生き成長したい」と前向きに理念の実現に向けて取り組んでいる。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理想の実践に向けて代表者直筆による「共に生きる」という額を掲示している。管理者・職員とも理念を日々の介護に生かす努力をしている。入職時の職員には理念の説明を実施し、その後は業務をとおしてミーティング等で確認し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの隣にある県営団地の草取り・下水掃除等に当事業所も自主的に参加している。地域のお祭りやマラソン大会等では、事業所の駐車場を開放し利用者も見学・応援するなど地域行事への参加もしている。また高校生のボランティア部活動の受け入れや、ギター・コーラス・舞踊等のボランティアを受け入れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価・自己評価の目的・意義・必要性を理解しており、ミーティング等で話し合い自己評価を完成させた。自分達の業務の見直しの良い機会と気づき今後の課題発見に繋がった。「外部評価の結果も楽しみ」と職員の前向きな発言があった。センター長は「この作業によって、職員の意気込みが変わってきた」と評価の活用に向けて前向きな姿勢を持っている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、「情報交換・事例検討の相談その他人的交流も含めて貴重な機会になっている」とセンター長の声があった。地域住民の代表として隣の団地に住んでいる住民の代表2名も参加され、家族も含めて相談の機会になっている。担当医には後日会議内容を報告し、利用者の家族には電話または書類で報告する。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームの開設が間もないため、市の担当課との連携を必要としている。直接会う機会がある時に、ホームの現状等について説明するように心がけている。	○	市の担当課職員の働きかけに応じているが、将来的には運営推進会議委員の依頼や、逆にホームとして市の行事や介護研修などを引き受ける等して、地域の介護力の質の向上に繋がりたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりの近況はホーム便りを送付し、報告している。また預り金の収支は領収書の原本を同封して報告する。緊急に受診等の際には電話連絡をする。職員の異動の際には家族がホームの近隣に住んでいる場合はセンター長が可能な限り家庭訪問し挨拶する。遠方の方へは電話で人事交代を知らせる。		定期受診以外の急な場合の受診にかかった領収書を送付する際には、受診時の状況や医師の説明などが書かれた手紙を添えるなど、きめ細やかな報告をすることが望まれる。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時の対応や電話連絡、運営推進会議の参加を呼びかけ、意見・希望・不満など何う努力をしている。家族・地域の代表の方の意見によりデイサービスのカラオケを導入する等外部の方の意見も取り入れている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設1年半でセンター長が3人異動。現センター長の場合は前任者と一緒に働く期間を設けた。職員の中には産休者が1名いるが、退職者は今のところいない。今年入ってからリーダー及びサブリーダーを配置し、利用者にとって馴染みの職員が対応できるようシフトを組んでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職歴に応じ実技研修5日間、その後本人の希望による社会福祉士・社会福祉主事等の研修に加え、社内で介護保険や音楽療法の研修が実施されている。管理職の2番手、3番手を計画的に育てる仕組みもある。また県内8箇所の同一法人のグループホームの交流学習会もある。なお年間研修計画や報告または実施記録があり、職員への周知も図られている。教育に力を入れている様子が伺えた。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人8グループホームとの短期人事交流がとられている。地域包括支援センターの呼びかけの研修(事例相談会・行事・後見人制度等)にも応じている。職員はケアマネジャー・歯科医等との連携や近隣のショートステイとの交流もしている。近隣のグループホームとも交流がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用開始前に行事のある日を選んで一泊体験を実施している。満室の場合は時間の許す限り見学を受け入れる。</p>	○	<p>家族等の状況で利用が急がれ、宿泊体験や見学ができない場合、本人の安心と納得の確保の方法を検討されることを期待する。</p>
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>食事作りは利用者と職員の共同作業により場面となっている。職員は「利用者から学ぶことが多く人生の先輩として接している」と言っている。食事の片付けは個々の能力を引き出す場面でもあり、洗う人・拭く人等、自ずと役割が出来ている。職員から利用者へ「ありがとう」の声も聞かれ、互助の関係性が出来ている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者との関りの中からその人を知り理解する努力をし、利用者の思い出、習慣、記念の品々、プライドを大切にしている。入居後、気の合う仲間をつくるための場面作りもしている。また体調の変化も加味して利用者の生活を支えている。夏でもこたつを放せない人や終日布団を敷いている人等に対しては体調に応じた対応がなされている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居時、本人及び家族との面談から情報を得てケアマネジャー・担当職員等と計画、立案する。計画は家族の了承を得て捺印されている。入居後は日勤者・リーダー・サブリーダー・センター長等4～5人で検討する。リハビリに関する計画は、同一法人ホームの職員である理学療法士に相談し意見をうかがうようにしている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に1回、定期的に見直しすが、状態の変化により随時ミーティング等で修正を検討し、計画を変更している。退院者の介護計画の見直しは、退院後早期に職員全員で実施している。家族には変更修正の了承印を貰っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	日々の関わりから利用者・家族の状況の変化・重度化の有無に応じ、家族と連携し24時間体制で通院介助の支援をしている。ターミナル期の利用については、現在ホームとして学習を開始して、受け入れの準備中である。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	年1回の定期受診をはじめ、インフルエンザの予防ワクチン年1回、訪問歯科及び歯科衛生士毎週1回の他に、事業所の協力病院と同市内の病院とも連携を図っている。原則は受診時は家族に連絡・同行していただく。付き添いは2人体制とし、職員が必ず同行する。介護日誌・管理日誌に状況を記述し、申し送る体制がとられている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約病院の他、市内・越谷市・杉戸町位なら希望する医療機関に継続利用可能なように支援する。職員は「ターミナルケアの学習会をもち、今後ターミナル期の利用者の支援も受け入れ、病院との連携も強化したい」と前向きに検討している。職員間では、管理日誌・介護記録などで情報の共有が図られている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の保護の徹底は入居時に重要事項で説明し家族の了解を得ている。職員は研修会でプライバシーの尊重と個人情報の保護について学習している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室の様子からその人らしい生活ぶりが伺える。概ね食事、買い物、散歩、入浴の時間など1日の流れは決めているが、利用者の状況や希望に応じた支援を行っている。横になっている人、テレビ観賞をする人、新聞を読む人、買い物に出かける人、食事作りに参加する人、家族の面会に応じる人、洗濯物をたたむことを日課としている人等、利用者のペースによって日々が送られている様子である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りに参加する人、食卓を準備する人、出来上がりを待つ人、食器を洗う人等、利用者自身で行っている。体調に合わせ軟食、キザミ食を取り入れる。希望により出前や外食も取り入れる。摂取量も毎日バイタル表に記載され、献立表も変化に富んで工夫されている。食器やお箸も馴染みの個人用である。利用者のペースに合わせてゆったりした時間が流れている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	浴槽は1室に2つあり、入浴時間は原則16時から18時であるが、希望に応じた対応も可能である。仲の良い利用者同士の入浴も時にはあるという。基本的には同性対応に配慮されている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴や日々の関りの中から、個人の隠れた力・才能を引き出しながら気晴らし・楽しみごとの支援をされている。中には自分の仕事として根を詰めて内職をしているつもりになってしまう人もある。必要に応じて見守りの注意が必要であるという。	○	園芸の導入や近くの公園散歩・ボランティアの導入等、楽しみや気晴らしの選択肢をもう少し多くする工夫に期待したい。
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は買い物に出かける。年間計画上の行事の他に車の都合をつけて、ドライブや道の駅等にも出かけている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームは国道16号線の、直ぐ側に面している。「施錠することは残念だが利用者の命には代えられない」と玄関は施錠し、家族に施錠についても充分説明し理解を得ている。センター長は施錠の弊害を充分承知の上、「止む無き処置」とつらい胸中を語られた。インターホンによる出入り対応である。洗剤・消毒薬などの置き場所にもなっている為、浴室と脱衣所(洗濯場)も鍵を掛ける。	○	鍵を掛けることの弊害を充分認識し、ホームの立地条件からやむを得ず安全策を取っているが、少しでも施錠に伴う弊害を解消する工夫が必要である。例えば庭に出る機会や買い物、散歩等を増やす等、利用者ができる限り外部の空気に触れる機会を多くする工夫を考えていただきたい。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	正面玄関・非常口は消防署と直結し、通報と同時に開錠するシステムである。2階はエレベーターがストップする場合ベランダで待機する。市内にある他の同一法人のグループホームとの連絡体制もある。避難訓練、消防訓練は2ヶ月に1回参加している。近くに中川があり、過去に水害もあった地域であるが、水や食料の備蓄はしてない。地域の助け合い協力網もこれからという。	○	災害時の対策はよく取られているが、水・食料の備蓄をされることを望む。また夜間人手の少ない場合の災害対策として職員が職場まで駆けつけるのに必要な所要時間を知っておきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内にフードサービス課があり栄養士の作成した献立を取り寄せることができる。完全3食手作りをモットーにしているが、必要時外食・出前も利用する。水分補給は食事時の他に10時・3時・就寝時に準備する。随時自動的にお茶も飲める準備もある。食事記録も取られ記載されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関は程よい装飾のすっきりとした雰囲気である。広い廊下・天井の高い食堂等、ゆったりスペースを確保し、予備の椅子も数脚置かれている。壁には行事の記念写真や手作りの暦・見やすい時計が掛けられている。不快な臭気はなく、室温・換気・照明など職員が調節する。廊下トイレ・浴室は安全対策(段差・滑り止め・手すり)がとられ、台所は職員と利用者が一緒に作業するスペースが保たれている。西日が強い場所には厚手のカーテンで遮光に配慮している。テレビは居室にもあり、食堂の音量は適度に調節されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅での生活空間を可能な限り再現している。ベッドの人、畳に布団の人、夏でもコタツが必要な人など入居者の希望に応じた居室作りに配慮している。また、仏壇はもとより思い出の家具や写真の持ち込み・好みの飾りつけや使い慣れた品々等、居心地良い生活の場となっている。		